

令和4年度 江戸川区立中小岩小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	よく考える子 思いやりのある子 たくましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	魅力と活力にあふれ、信頼される学校 よく考え、思いやりのあるたくましい子 職員自身が最大の教育環境
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> 教科担任制を取り入れた教育活動が展開するとともに、東京ベーシック方式の取組を徹底することにより本校における学力の向上につながった。 <課題> 新しい生活を踏まえ、6年間で育成する児童の資質・能力を明確し、学力や体力の向上とともに児童の成長を促す教育活動を展開するための基盤づくりが課題である。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的に対応による取組の実施・充実	・一人1台の端末を活用し、国語や算数等を中心に基礎的・基本的な事項の繰り返しの学習を行う。	・毎日、各教科等においてタブレット端末を活用する学習活動を取り入れる。 ・eライブラリアドバンスの活用を促すよう、取組習慣を設定する。	B	B	○全学年、授業等においてタブレット端末を活用する学習活動を取り入れ、児童が意欲的に学習することができた。 ●eライブラリアドバンスやタブレット端末のさらなる活用を通して学習内容の一層の定着や家庭学習の定着を図ることが課題である。	B	引き続き、タブレット端末を活用した学習活動を推進するとともに、情報モラルへの取組を充実させる。	タブレット端末を活用した学習活動の計画を充実させるとともに、eライブラリアドバンスの充実を教育委員会に求めていく。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・年間35回の運動遊びのほか、持久走月間や縄跳び月間を設定し、運動に親しむ機会をつくる。	・毎週中休みに運動遊びタイムを設定する。また、12月に持久走月間、1月に縄跳び月間を設定し、全児童の90%の参加を目標とする。	B	B	○年度当初は感染対策のため活動内容を縮小したが、二学期以降計画通りに実施することができた。 ●年間を通じた運動遊び等が実施できるよう実施計画を見直し、全児童が運動に親しむ機会を充実させることが課題である。	B	成長期の運動は、健康な体づくりにおいて大切な取組である。児童一人一人が体を動かすことや運動の楽しさを実感できる取組を推進する。	異年齢交流や行事と関連させながら、児童が運動に親しむ環境を充実させる。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・探究的な学習としての読書科を中心に思考ツールを身に付け、各教科等において児童の思考力・判断力・表現力等を育成する。	・5月までに読書科のねらいや指導法に関する資料を全職員にする。また、毎週の週案提出を通して読書科の指導内容や取組状況を確認し、年間授業時数を確保する。	B	B	○年間指導計画通り実施することができた。また、総合的な学習の時間と連携した探究的な学習活動を推進することができた。 ●図書館の活用方法の再検討や読書センターとしての活用や家庭での読書をする環境づくりの啓発への取組が課題である。	B	図書館機能の充実させるためには、学校だけの取組だけではできない。設備や予算、学校司書の配置など、教育委員会に対する一層の働き掛けを強く要望する。	図書館機能の充実について教育委員会に対して一層働きかける。また、読書科の学習を充実させるため、校内研修を実施する。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・ユニバーサルデザインに基づく学習環境の整備や学習指導に関わる研究を行い、その成果を全職員で共有し、教育活動に生かす。 ・生活指導部と連携し、エンカレッジルームを活用した児童の支援を行う。 ・特別支援学校と連携し、副籍交流を希望する児童に対して積極的に受け入れる。	・授業観察を通して、全学級の掲示物や教室環境について確認し、年3回の自己申告書の面接を通して取組状況を確認する。 ・生活指導夕会や毎学期の行う校内委員会を通して支援内容や方法を確認する。 ・1学期に鹿本学園と対象児童の確認や交流計画を作成し、毎学期の交流を実施する。	B	B	○全職員が情報を共有し支援内容や方法の確認、副籍交流など実施することができた。 ●ユニバーサルデザインへの理解は進んだが、予算の都合上、環境整備を十分に進めることができなかった。年度当初に計画を立て、実施することが課題である。	B	学校は様々な要望や対応を十分に行っている。困難な課題もあると思うが、関係機関や地域の方も使いながら、さらに充実した取組になることを期待する。	関係機関との連携やケース会議の実施など、あらゆる方法を模索し、引き続き対応していく。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組	・年3回、児童アンケートを実施し、一人一人の小さな変化を見逃さない指導を行うとともに、「SOSの出し方に関する教育」を発達段階に応じて実施する。	6月、11月のふれあい月間や各学期末のアンケート調査を実施する。5年等「SOSの出し方に関する教育」を踏まえた授業を実施する。	B	B	○計画通り実施でき、いじめへの対応に取り組むことができた。 ●いじめの未然防止や発生の際の取組について、事例を活用した研修を充実させることが課題である。	B	いじめや生活指導上の問題解決は重要な取組の一つである。問題の解決に向けて、関係機関ともよく連携して取り組むことを引き続き期待する。	事例を活用した研修を実施する。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・年2回児童、保護者、地域関係者を対象に学校評価を実施し、教育活動の改善・充実に生かす。	・9月、12月に学校評価を実施し、10月、1月の学校だよりやホームページを通して改善案を明示する。	B	B	○タブレット活用した学校評価の取組により改善への取組が円滑に進めることができた。 ●学校評価について、より多くの方が参加できる方法や項目の見直しに取り組むことが課題である。	B	学校評価について、評価で終わるのではなく、その中から課題を明確にして教育活動や教育課程の編成に生かすことが大切であると考えている。評価結果の公表はもとより、実効性にある改善策の策定と取組を引き続き期待する。	学校評価計画を再検討し、学校・家庭・地域が連携し、地域の公立学校としての教育活動の充実に取り組む。
	簡潔で分かりやすい情報の発信とシステムの強化	・簡潔で分かりやすい情報の発信とシステムの強化	・学校だよりの紙面を刷新し、必要な情報を保護者に提供できるようにする。 ・ホームページ等を活用し学校からの情報発信を常に行う。	・毎月末に4頁構成の学校だよりを発行し、ホームページにも掲載する。 ・ホームページ内のサイトを見直し、児童の活動の様子や行事に関わる内容、食育その他お知らせを適宜発信し、日平均300アクセスを目標とする。	B	B	○必要な情報提供を重視した学校だよりの発行やホームページリニューアルに取り組む、日平均211アクセスを達成できた。 ●スマートフォンの利用を念頭に置いたホームページづくりなど、本校の教育活動の理解につながる情報発信と内容の充実が課題である	B	学校だよりのリニューアルやホームページの更新頻度の多さなど、学校や家庭や地域への情報公開に対する姿勢の変化が感じられる。引き続き、取組を推進し、中小岩小学校の教育活動を周知することに期待する。	タブレット端末やスマートフォンへの配信等、ICT機器を活用した情報発信の充実に取り組む。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・超過勤務時間の目安を全職員に提示するとともに、超過勤務の削減につながる取組を適宜実施する。	・全職員が超過勤務時間について、二学期までに60時間以内、三学期までに月40時間以内をも目標とする。	C	C	○超過勤務野削減を推進し、70%の職員が60時間以内を達成した。 ●月45時間以内を達成するために、業務内容の見直しと業務量の削減、それを可能にする校務分掌組織の改正に取り組むことが課題である。	C	単なる勤務時間の削減ではなく、中小岩小学校の教育活動の充実につながる取組を推進してほしい。そのためには学校として取り組むことの内容について精査するなど工夫することを期待する。	1年間をかけて業務内容の見直しや業務量の削減に取り組む。また、今年度中に校務分掌組織の改正を行う。
	働きやすい校務分掌組織を構築するとともに、合理的な経理体制を整える。	・今後5年を見据えた本校の教育活動に関するグランドデザインを作成するための準備を推進する。また、現在の校務分掌組織や仕事量、会議の持ち方を今年度中に見直す。	・1月までに、グランドデザイン策定に関わるワークショップを実施する。また、2月までに次年度の新しい校務分掌や会議の進め方等を全職員に提示し、翌年度より適宜実施する。	○来年度の校務分掌や会議の進め方など、次年度への取組を進めることができた。 ●グランドデザインを策定するために、年間計画を作成し計画的に取り組む体制を整えることが課題である。	C	C	○開校80周年を控え、よき伝統も継承しつつ、これからの社会で児童が力を発揮できる自立した人となるよう、将来を見据えたグランドデザインの策定を期待する。	C	開校80周年を控え、よき伝統も継承しつつ、これからの社会で児童が力を発揮できる自立した人となるよう、将来を見据えたグランドデザインの策定を期待する。	グランドデザイン策定計画を作成し、令和5年度中に策定する。